

取組市町名	東温市	所属	企画財政課
▽取組事例名	行政いかくん始動（身近な業務の改善）	▽取組期間	平成25年度～

▽取組概要

職員一人ひとりが行っている業務で、「こうしたほうがよいのでは?」、「これをしたら効率よくなるのでは?」など普段思っていることについて、庁内イントラネットを利用して手軽に掲載・宣言することで、改善・改革情報を庁内で共有し、行革に対する職員の意識向上を図る。

▽取組みの背景

平成25年度から平成28年度までを推進期間とする「第3次東温市行改革大綱・実施プラン」では、第2次行革プランで掲げた1係1改革運動を1人1改革運動に発展させ、「身近な業務の改善」を推進項目として設定し積極的に取り組むこととした。

この策定に携わった若手職員のアンケート結果には、普段から業務に対して意見を持っていたが提案する機会がない、職員提案制度のような大仰なものではなく小さな改善を提案できる制度がないという回答も多く、潜在的な需要がかなりあると予想された。

実際、既存の職員提案制度は年間数件の応募にとどまっており、この現状を打破するためには、静岡県などの先進事例を積極的に取り入れた新しい推進体制を構築する必要があった。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

職員が、日々自主的に取り組んでいる業務改善や改善提案を、職員間で蓄積・共有し、改善・改革の環を広げていく仕組みを構築し、職員の行政改革に対する意識向上を図る。

提案書を作成提出する従来のやり方を一新し、職員が気軽に取り組めるよう、毎日見ている庁内イントラネットシステムの一部を改修することで、提案に対する抵抗感を払拭する。

この小さな業務改善の積み重ねにより、経費削減、業務効率化及び市民サービスの向上という大きな成果につなげる。

(具体的内容)

1. 提案者 (正規職員、臨時職員は任意)
提案は職員が単独又は共同で提案することができる。
2. 提案の種類 (大きく分類して4種類)
 - (1) 気ままにポすっと (改善・改革の宣言)
職員自らの業務で、一般的な事務の見直しや改善により、現状の事務事業の向上が期待できると思われる提案を宣言する。
 - (2) こんなんでしょうか? (他業務への提案)
他部署に改善又は取り組んでほしいと思う提案を投稿する。事務局が取りまとめて担当部署に対応を依頼する。
 - (3) で・き・ま・し・た (改善・改革の成果報告)
自らの業務で取り組んだ身近な改善内容を、実績として取りまとめて掲載し情報を共有する。
 - (4) ひらめきボックス (アイデア募集・応募)
改善・改革したい業務はあるが、うまく解決方法がまとまらないため、職員から広くアイデアを募集する。また、募集案件について思いついた提案を投稿する。
3. 提案の方法
 - (1) 庁内イントラネットシステムの「行政いかくん」を開き、提案の種類ごとに設定する様式を、各自のパソコンにダウンロードする。
 - (2) 様式に、改善内容や行革に賭ける思いを記述する。
 - (3) 「行政いかくん」の編集画面で概要等を入力し、先の様式を添付する。
 - (4) 提案は、毎年4月末までに1提案以上行うこととし、庁内イントラネット稼働中であれば、いつでも投稿することができる。
 - (5) 投稿された提案は、庁内イントラネットで自由に閲覧し共有できる。
4. 評価について
大きな成果を挙げた提案者は、人事評価に反映させることを検討している。

▽取り組みを進めていくなかでの課題・問題点 (苦労した点)

庁内イントラネットの利用が前提であったため、システム改修費用抑制の観点から、フェイスブックの「いいね」のようにボタンで評価できる機能や提案の集計機能など希望していた機能のいくつかを省いた。

☆工夫した点

身近な業務の改善を行革推進への第一歩と位置付け、内容の軽重や根拠の精査を問わないことで、行革への抵抗感を払拭し、常に問題意識を持ち改善への意欲を養い、行政改革に一部の関係者が取り組むだけでなく職員全員で取り組んでいくこととした。

なお、この仕組みは、マネ・パクリOK、良いものは積極的に取り入れることを推奨している。
また、実現は容易ではないがキラリと光る提案があれば、新たに設ける若手職員プロジェクトチーム及び施策提案会議につなげ施策実現を目指すとともに、政策立案能力の向上を図っていく。

▽取り組みの効果

平成26年度4月に説明会を開催し、募集開始3週間での実績は以下のとおり

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ・気ままにポすっと（改善・改革の宣言） | 73提案（155人） |
| ・こんなんでしょうか？（他業務への提案） | 21提案（32人） |
| ・で・き・ま・し・た（改善・改革の成果報告） | 5提案（8人） |
| ・ひらめきボックス（アイデア募集・応募） | 4提案（4人） |
| 計 | 103提案（199人）提案職員の延べ人数 |

全職員が毎日見ている庁内イントラネットを利用したことで、各自の提案が新着情報としてその都度更新され相乗効果が表れた。

▽住民（職員）の反応・評価

多くの提案があり意欲と可能性を感じた。自分とは違う発想に触れることで、多くの刺激を受けているようである。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

自分の宣言や提案が、どう評価されたかを示すことが重要と考える。そのためには、該当する部署への働きかけの強化だけでなく、制度やシステムの改善にも努めなければならない。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

実際の提案は平成26年度に始めたばかりで、この取り組みを進めていきながら、使い勝手のいいよう更なるシステムの改善を行っていく。